

予報期間 2月8日から2月14日まで

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 10日から11日は、気圧の谷が日本付近を通過して、日本の東で低気圧が発生する。
- 12日は、低気圧が千島の東へ進む。高気圧が東シナ海へ移動して、日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 13日は、高気圧が日本の南へ移動する。気圧の谷が北日本付近を通過する。
- 14日は、日本付近は高気圧に覆われる。

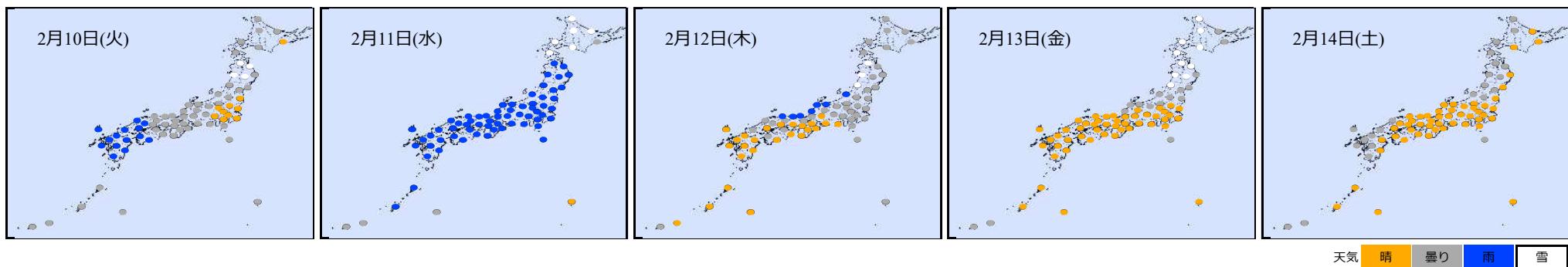
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

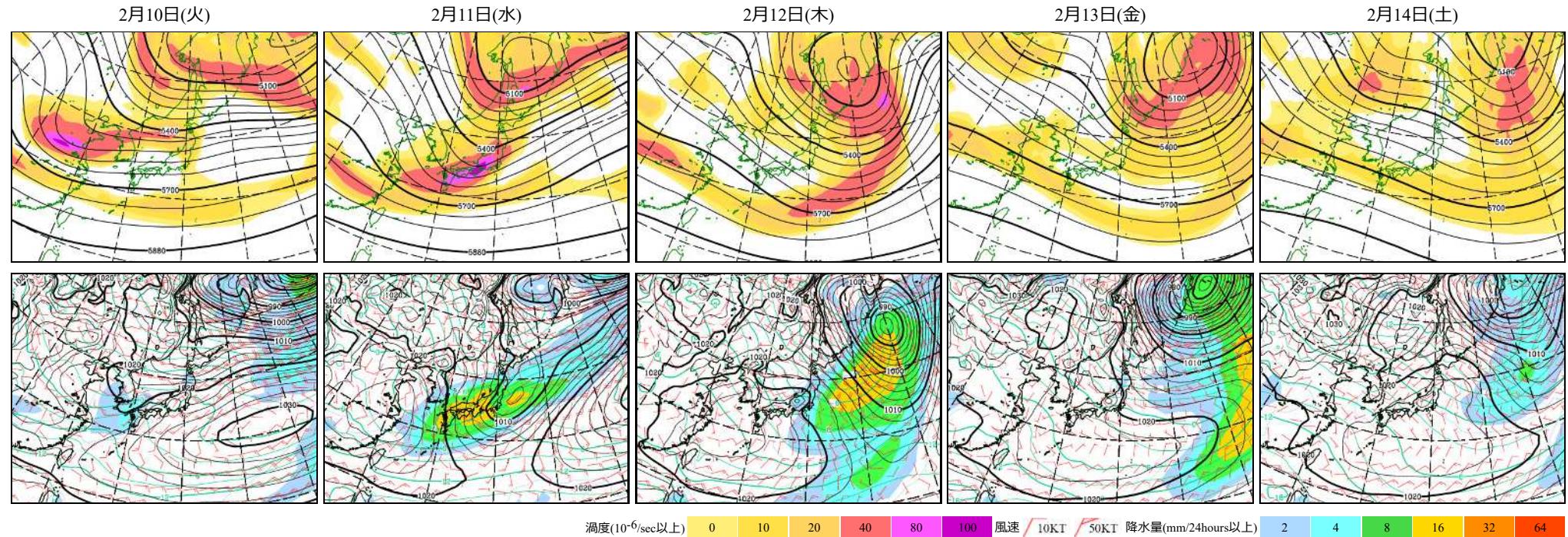
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

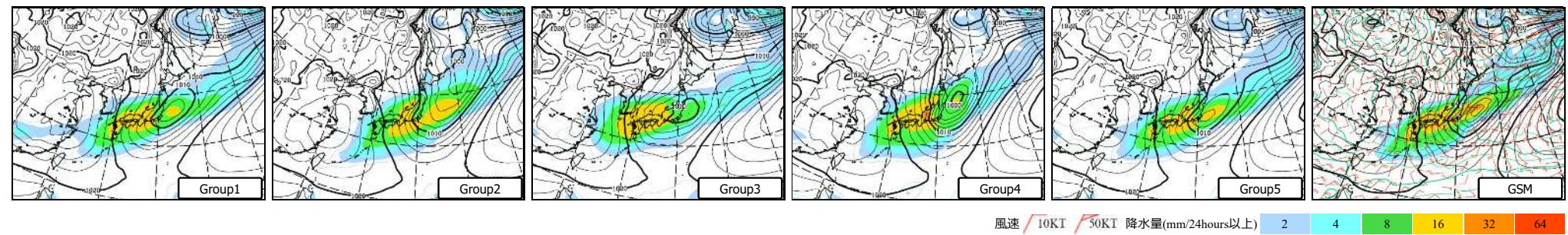


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多いが、13日と14日は晴れる所がある。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、10日と11日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、晴れまたは曇りの日が多いが、11日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図:500hPa高度線、渦度 下図:海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月11日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、11日は日本付近のトラフが深くなり、日本の東海上でまとまる低気圧が明瞭となった。降水確率ガイダンスの初期値変わりは小さい。
- 各モデルとも、11日は気圧の谷が日本付近を通過して、日本の東で低気圧としてまとまる予想でおおむね揃っている。
- スプレッドは、期間の中頃にかけては小さいが、期間の終わりはやや大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。